

徒然なる1ページ2014

～俳句へのいざない～

俳句 冬の季語

FACEBOOK 投稿分

公益財団法人大谷教育文化振興財団

徒然なる1ページ制作チーム

『徒然なる1ページ 2014 ～俳句へのいざない～』は 2014 年(平成 26 年)FACEBOOK に投稿した日本独自の文化である俳句の季語を季節ごとにわけて刊行しております。

十一月七日

今日の季語のご紹介は“冬の朝”(ふゆのあさ)です。

空気が澄んでいて、凜としたという表現がふさわしい日もありますね。お布団も恋しいですが、朝の気持ちのよい空気を感じて気持ちを引き締めるのも冬の醍醐味ですね。

十一月八日

今日の季語のご紹介は“神楽”(かぐら)です。

神楽とは、神道の神事において神に奉納する歌舞をいいます。

旧暦十一月は諸社で神楽を奉納する儀が多いので、神無月と呼ばれるようになりました。

十一月九日

今日の季語のご紹介は“日向ぼっこ”(ひなたぼっこ)です。

夏は日光浴といい、この時期からは日向ぼっこと言い方が変わります。空気が冷たくなってくると、太陽の暖かさが有難いですね。

十一月十日

今日の季語のご紹介は“河豚”(ふぐ)です。

敵を威嚇するために、体をまんまるに膨らませる姿がコミカルでよく知られていますね。また毒があることも有名で、各地で「ふく」「てっぽう」「がんば」など、毒にちなんだ洒落を効かせた呼び名があります。

十一月十一日

今日の季語のご紹介は“ショール”(しょーる)です。

ショールとは衣類の一種で、両肩を覆う防寒具です。日本でも明治中期より国産のショールが作られるようになりました。

十一月十二日

今日の季語のご紹介は“水鳥”(みずどり)です。

水辺にいる鳥を総称して水鳥といい、鴨、雁、千鳥などがいます。仲良く並んで泳ぐ水鳥の姿は、よく画材でも取り上げられますね。

十一月十三日

今日の季語のご紹介は“牡蠣”(かき)です。

マガキやイワガキなど、世界中で食されています。栄養価がとても高く、まったりとした味わいを楽しめることから「海のミルク」とも言われています。

十一月十四日

今日の季語のご紹介は“寒雀”(かんすずめ)です。

冬を過ごす小さな雀の姿をいいます。

寒そうに軒下に並んでいる姿や、餌をついばむ姿はとても愛らしいですね。

十一月十五日

今日の季語のご紹介は“短日”(たんじつ)です。

冬になり、日暮れが早くなることをいいます。

秋の夜長とはちがう、冬には冬の夜の楽しみ方がありますね。

十一月十六日

今日の季語のご紹介は“木枯し”(こがらし)です。

初冬に吹く、木々を吹き枯らすほどの強い風をさします。「木枯し1号」とニュースで流れると、本格的に冬を感じますね。

十一月十七日

今日の季語のご紹介は“霜焼”(しもやけ)です。

寒さのために、手や足、耳などに局部的に生じる軽い凍傷のことをいいます。

十一月十八日

今日の季語のご紹介は“冬菜”(ふゆな)です。

白菜・水菜・小松菜など、冬に旬をむかえる菜葉の総称です。栄養満点な旬のお野菜をいただくと、元気になるような気がしますね。

十一月十九日

今日の季語のご紹介は“寄せ鍋”(よせなべ)です。

お鍋料理の一つで、お野菜やお肉、魚介類など、様々な具材を楽しむお鍋です。

最近では3Dアート鍋など、お鍋の楽しみ方も多種にわたりますね。

十一月二十日

今日の季語のご紹介は“巢”(ふくろう)です。

猛禽類の鳥類で、ホーホーという特徴的な鳴き声で、絵本などで昔より親しまれてきました。残念ながら夜行性なので人目に触れることはめったにありません。

十一月二十一日

今日の季語のご紹介は“冬木立”(ふゆこだち)です。

冬木が立ち並んでいる様をいいます。今にも冷たい風が耳元をかすめていくようですね。

十一月二十二日

今日の季語のご紹介は“毛布”(もうふ)です。

毛布とは、羊毛などを厚く織った製品で、おもに寝具として用いられます。ふわふわした肌触りなので掛布団の下に敷きたくありませんが、掛布団の上に毛布をかけた方が保温性が保たれるそうですね。

十一月二十三日

今日の季語のご紹介は“茎漬け”(くきづけ)です。

お大根や蕪の茎葉を塩漬けにしたものをさします。京都土産で有名な「酢茎」は八つ頭という里芋の茎を漬けたものをいいます。

十一月二十四日

今日の季語のご紹介は“竈猫”(かまどねこ)です。

寒がりの猫が、かまどの側で暖をとっている様子をいいます。現代では、ストーブの側の一番暖かいところは猫の方が知っていますね。

十一月二十五日

今日の季語のご紹介は“冬の月”(ふゆのつき)です。

冬の月は青白くきびしく冴え、天空高くに輝きます。息も凍るような寒い夜、ふと空を見上げると、あまりにも神々しい輝きを放つ月に目を奪われることがありますね。

十一月二十六日

今日の季語のご紹介は“お歳暮”(おせいぼ)です。

年の暮れにお世話になった方に感謝の気持ちをお伝えする「歳暮周り」と呼ばれる行事が行われていました。このときに贈答するものを総じて「お歳暮」と呼ぶようになりました。

十一月二十七日

今日の季語のご紹介は“冬めく”(ふゆめく)です。
街の風景だけでなく、周りの雰囲気も冬らしく澄んでくるといいます。

十一月二十八日

今日の季語のご紹介は“牡蠣船”(かきぶね)です。
旬の牡蠣料理を屋形船で楽しむこと。最近ではオイスターバーなどもありますが、屋形船で歴史を感じながらいただくのも風流ですね。

十一月二十九日

今日の季語のご紹介は“時雨”(しぐれ)です。冬の初めに気まぐれに降る雨や雪をさします。

十一月三十日

今日の季語のご紹介は“石落の花”(つわのはな)です。
九州や四国など、暖かい地方の山で自生している「つわぶき」の花をいいます。落によく似た葉と、黄色い花弁が特徴です。日陰でもよく育つので、観賞用として庭に植えられたりもします。

十二月一日

今日の季語のご紹介は“落ち葉”(おちば)です。
散り落ちた木の葉をいいます。風に吹かれ、ハラハラと舞う葉は綺麗ですが、哀愁を伴いますね。

十二月二日

今日の季語のご紹介は“焼き芋”(やきいも)です。
さつまいもの丸焼き・切焼き・壺焼きなどの総称ですが、現在では石焼き芋をさすことが多いようです。

十二月三日

今日の季語のご紹介は“冴ゆ”(さゆ)です。
寒さの極まった、澄徹した様子。あらゆるものが凜とした冷たさを感じる表現です。
月冴ゆ、風冴ゆる、影冴ゆるなどと使います。

十二月四日

今日の季語のご紹介は“炬燵”(こたつ)です。
禅宗の僧侶により中国よりもたらされたと言われており、現代では置き炬燵や掘り炬燵などに進化しています。冬の寒い日には、至福の一時をもたらしてくれますね。

十二月五日

今日の季語のご紹介は“焚火”(たきび)です。

童謡にも歌われていますが、落ち葉や枝を集めて火を灯すことをいいます。現在では条例で禁止されている地域もありますから、焚火も古き良き原風景になる日も近いでしょうね。

十二月六日

今日の季語のご紹介は“懐炉”(かいろう)です。

現代では使い捨てカイロや、電子レンジで温めるカイロが一般的ですが、古くは石や灰などを熱して懐に忍ばせていたそうです。

十二月七日

今日の季語のご紹介は“狐火”(狐火)です。

冬の夜、火の気のない場所で炎が見える怪現象で、狐が口から吐いたものと信じられていました。

十二月八日

今日の季語のご紹介は“おでん”(おでん)です。

元々、田楽から派生した煮込み料理で「御田」と呼ばれていました。

お大根やこんにゃく・ゆで玉子など、好みが別れるところですね。

十二月九日

今日の季語のご紹介は“兎”(うさぎ)です。

耳が長く、ぴよんぴよん動くとても可愛い小動物です。

古今東西、キャラクターやシンボルマークとして、世界中で大活躍しています。

十二月十日

今日の季語のご紹介は“冬麗”(ふゆうらら)です。

春を思わせるような暖かな冬晴れのことをいいます。柔らかな表現がとても風流ですね。

十二月十一日

今日の季語のご紹介は“冬の蝶”(ふゆのちょう)です。

春には元気よく日の光を楽しむように飛んでいる蝶も、寒い冬にはどこか元気がないように見えますね。

冬蝶や、凍蝶(いてちょう)とも詠まれます。

十二月十二日

今日の季語のご紹介は“冬帽子”(ふゆぼうし)です。

冬にかぶる帽子の総称です。冬の帽子は防寒とおしゃれの両面から楽しめるアイテムですね。

十二月十三日

今日の季語のご紹介は“氷豆腐”(こおりどうふ)です。

寒夜、お豆腐を屋外で凍らせてから乾燥させたものです。高野山で精進料理の一つとして作られるものが、高野豆腐として有名ですね。

十二月十四日

今日の季語のご紹介は“冬鷗”(ふゆかもめ)です。

鷗は、秋に渡来する冬鳥ですが、従来無季とされていたので俳諧では冬鷗となりました。

十二月十五日

今日の季語のご紹介は“冬の灯”(ふゆのひ)です。

冬の夕暮れに街角にともる灯は、寂しさを感じるとともに、暖かな屋内も想像できますね。

十二月十六日

今日の季語のご紹介は“湯冷め”(ゆざめ)です。

湯冷めとは、入浴後に身体が冷えて寒気を感じることです。冬の入浴タイムは至福の一時ですが、湯冷めには注意したいものですね。

十二月十七日

今日の季語のご紹介は“風花”(かざばな)です。

晴れている日に、雪が風にのってちらちらと降ること。その様が「風に舞う花」のように見えることから、風花と言われるようになりました。冬は厳しい季節とはうらはらに、綺麗な季語が多いですね。

十二月十八日

今日の季語のご紹介は“冬至”(とうじ)です。

冬至とは、一年で最も夜が長い日で、だいたい12月21日頃になります。昔からの風習にのっとり、柚子湯や、かぼちゃを頂いて万病の予防に努めるのも良いですね。

十二月十九日

今日の季語のご紹介は“生姜湯”(しょうがゆ)です。

生姜を用いた飲み物や、お風呂をさします。体を温める作用が有名な生姜は、風邪の引き始めなどに重宝しますね。

十二月二十日

今日の季語のご紹介は“冬紅葉”(ふゆもみじ)です。

紅葉を終え、周りの葉が散っていく中、散り遅れてわずかに残っている紅葉の葉をいいます。

十二月二十一日

今日の季語のご紹介は“炉”(ろ)です。

炉とは火をおこしたり、香をたいたりする用具をいいますが、俳諧では囲炉裏を表すことが多いです。

十二月二十二日

今日の季語のご紹介は“白鳥”(はくちょう)です。

真っ白な姿が印象的な渡り鳥です。白銀の世界の中で、羽を休める姿はとても優雅に見えますね。

十二月二十三日

今日の季語のご紹介は“悴む”(かじかむ)です。

冷たい空気に触れて、手足が冷たく凍えることをいいます。悴んだ手を息で温めるというのも、冬によく見られる光景ですね。

十二月二十四日

今日の季語のご紹介は“毛糸玉”(けいとだま)です。

毛糸をまるくまとめた玉のことで、手編みをする際に重宝します。こたつの側で毛糸玉と戯れる猫、という図がふと頭に浮かんできました。

十二月二十五日

今日の季語のご紹介は“クリスマス”(くりすます)です。

十二月二十五日は、イエスキリストの降誕を祝すキリスト教の祭日です。日本では明治時代以降、宗教色が少ない娯楽イベントとして広まっています。

十二月二十六日

今日の季語のご紹介は“南天”(なんてん)です。

真っ赤に色づく実が特徴的な植物で、よく庭木にも植えられます。お正月用の盆栽やアレンジメントにもよく使われます。

十二月二十七日

今日の季語のご紹介は“スケート”(すけーと)です。

起源は旧石器時代まで遡ります。日本では明治時代以降、広がり始め、現代では冬を代表するスポーツになりましたね。

十二月二十八日

今日の季語のご紹介は“氷柱”(つらら)です。

氷柱とは、軒下や枝などから棒状に伸びた氷をいいます。寒冷地の風物詩の一つでもありますね。

十二月二十九日

今日の季語のご紹介は“宝船”(たからぶね)です。

七福神と宝船を描いて絵で、一月二日の夜、枕下に敷いて寝ると良い初夢を見るといわれています。

十二月三十日

今日の季語のご紹介は“歌留多”(かるた)です。

お正月に小倉百人一首で遊ぶこと。現代では「花札」や「萌えカルタ」など、多種多様のカードゲームがありますが、昔から親しまれている百人一首で遊ぶのも粋なものですよね。

十二月三十一日

今日の季語のご紹介は“初詣”(はつもうで)です。

新年を迎え、初めて神社や仏閣へ詣でることをいいます。一年の感謝を捧げることも大事ですね。

一年間、ご愛読いただきまして有難うございました。

徒然なる1ページ制作チーム